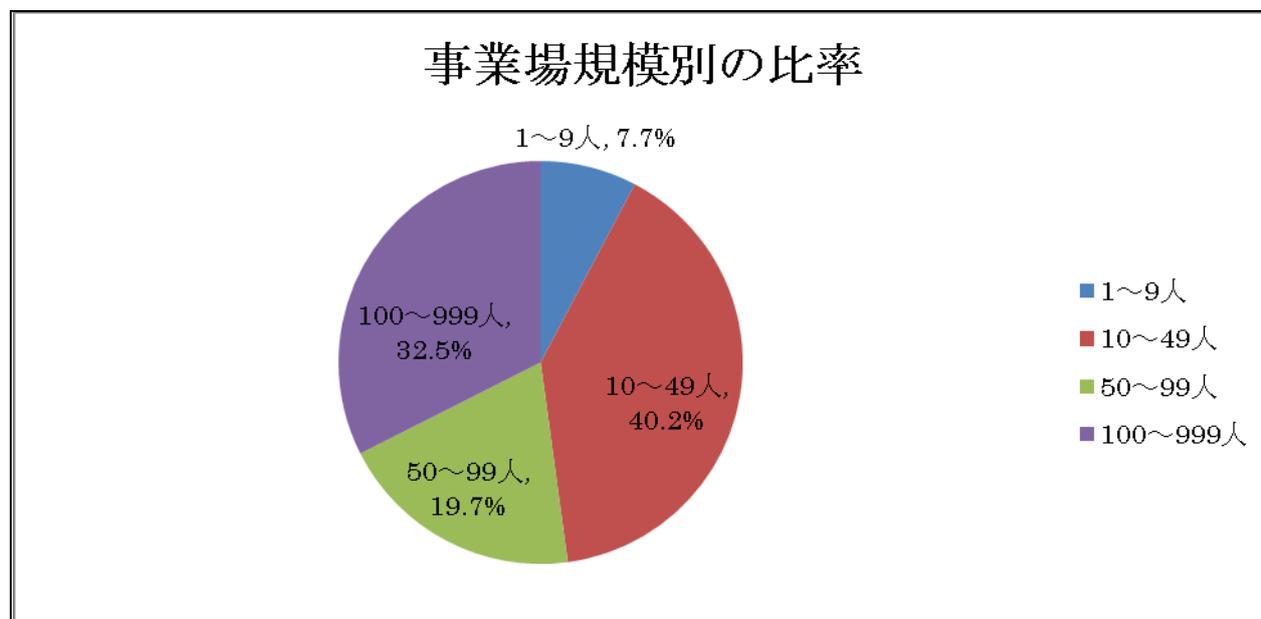


平成22年1月～10月末における食料品製造業の労働災害

平成22年1月～10月末に発生した死傷病災害報告を分析したところ、次のような傾向が認められました。

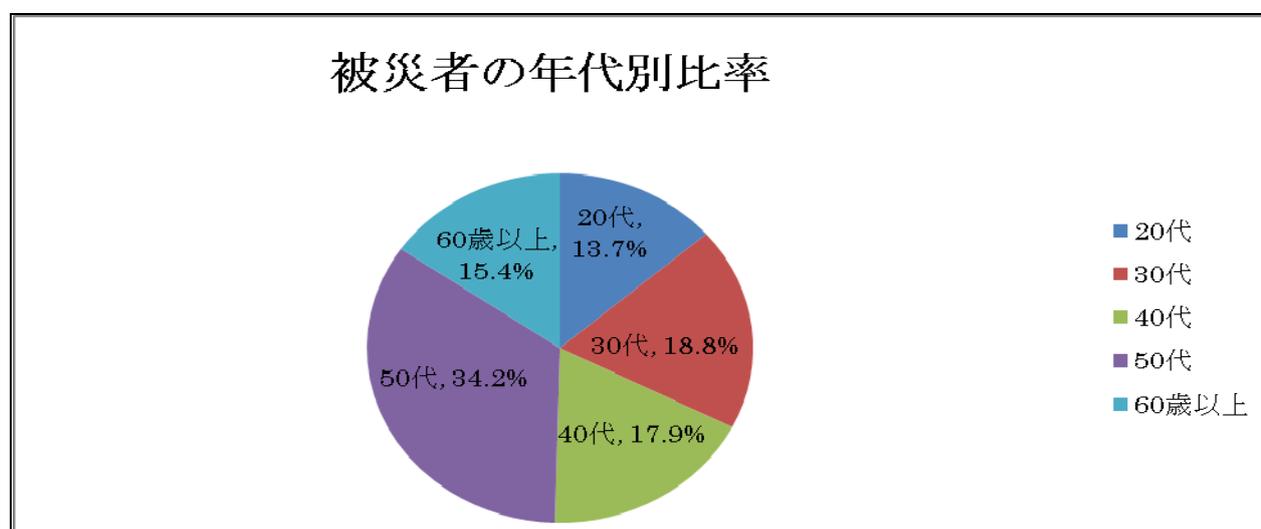
1 被災労働者が所属する事業場規模について

最も労働災害が多く発生しているのは10～49人規模の事業場で全体の40%を占めています。その次に多いのが、100～999人規模の事業場となっており（32.5%）労働者を100人以上雇用している企業でも災害が多いことがわかります。



2 被災者の年齢構成について

年齢的には50歳代が最も多くなっています。しかしその他の年代でも一定の割合で災害は発生しており、どの年代の方も注意が必要です。



3 事故の型別災害発生状況

食料品製造業で最も多い災害は「転倒」です。その割合は大変大きく、全体の25%以上を占めています。また「はさまれ・巻き込まれ」も同様に多く、この2つの型別を合わせると50%以上になります。

